

第 5 期ふじのくに文化振興基本計画策定に向けた論点整理

次期計画に当たっての検討課題

第 5 期計画に盛り込むべき事項（案）

【基本目標】

感性豊かな地域社会の形成

へふじのくに芸術回廊の実現

第 4 期計画（2018（H30）年度～2021（R3）年度）

重点施策

取組の成果

豊かな感性を育む文化振興

- ① 子どもが文化と出会う機会の充実
- ② 多様な価値観を表現し、尊重する環境づくり

- ・ふじのくに子ども芸術大学の拡充
- ・子どもが文化と出会う機会創出事業の開始（2019 年）
- ・県有文化施設における鑑賞・体験機会の提供の充実
- ・障害者芸術の拡充（まちじゅうアート、障害者芸術祭 等）

新たな価値を生み出す文化振興

- ③ 創造活動の実現と環境づくり
- ④ 文化資源の発掘と創造活動による地域の魅力向上

- ・SPAC（静岡県舞台芸術センター）の世界的な活躍
- ・ふじのくに芸術祭の継続
- ・文化プログラムの展開
- ・文化財保存活用大綱の策定（2019 年）

人・社会・世代をつなぐ体制づくり

- ⑤ 地域・社会の様々な課題への文化力の応用
ー文化「が」ささえるー
- ⑥ 文化を支援する機能の強化
ー文化「を」ささえるー

- ・文化プログラム（公募プログラム）の展開と支援
- ・静岡県版アーツカウンシル設置（2021 年 1 月）

※アートプロジェクトとは、地域住民をはじめ、産業・まちづくり・教育・福祉など社会の様々な分野の担い手による創造的な活動をいう。

① 多彩な文化資源の活用

- ・世界クラスの県立演劇集団 SPAC、世界文化遺産「富士山」、お祭りを始めとする各地の固有の文化財、食文化、県内で最大かつ最高水準の「ふじのくに芸術祭」等、多彩な文化資源が存在
- ▶▶ 文化資源の体系化と連携した展開

② 様々な属性の人々による文化活動

- ・次代を担う子ども達が文化芸術に触れる機会の提供
- ・高齢者、若者、障害者など様々な属性を持つ人々が文化を鑑賞、体験、創造する機会の拡充
- ・各地におけるアートプロジェクトの勃興
- ▶▶ それぞれの属性に対応した活動機会の創出

③ 文化振興を担う様々な主体

- ・本県の文化振興を担う関係機関の連携促進
＜県、市町、県文化財団、地域団体 等＞
- ・特色ある県有文化施設の事業展開と適切な管理運営
- ・地域の文化芸術活動を支援する専門家集団
- ▶▶ 文化を担う主体間のネットワーク構築

④ 社会構造の変革、危機への対応

- ・我が国における人口減少、高齢化の進行
- ・グローバル化の進展（インバウンドの増加等）
- ・5 G 等、情報通信環境の高度化
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う文化活動の制限
- ・限られた財源での効果的な施策の展開
- ▶▶ 持続可能な文化芸術活動の仕組みづくりの検討

○ 東西南北に広がる本県の地理的特性

- ・大都市に鑑賞機会等が集中
- ・遠隔地への鑑賞機会の提供が限定的
- ▶▶ 地域における文化芸術の育成

＜方向性＞

文化振興の新たなステージへ

～いつでも、どこでも、だれもが参加し、楽しめる“ふじのくに芸術回廊”の確立～

① 世界で輝く静岡ブランドの創造

- ・世界文化遺産「富士山」の文化的価値の発信
- ・SPAC を核とした“演劇の都”構想の推進
- ・本県固有の文化財の保全と活用
- ・文化プログラムの未来への継承

② 社会の多様な担い手による創造的な活動の促進

- ・アートプロジェクト*を実施する団体の支援
- ・県民オーケストラ等、県内アーティストの育成
- ・様々な属性を持つ県民が文化活動に参加できる環境の整備（ふじのくに芸術祭、障害者芸術祭 等）

③ 文化活動の支援と人材育成の促進

- ・アーツカウンシルによる担い手の発掘と育成
- ・次代を担う子ども達が文化に触れる機会の充実（演劇スクールの設立、学校教育との連携 等）
- ・静岡文芸大における文化に携わる人材の育成

④ これからの文化振興のプラットフォーム

- ・県、市町、その他関係機関の連携促進
- ・アーツカウンシルの体制の確立
- ・県立美術館等、文化施設の安定的な運営
- ・県文化財団の体制強化（県事業の移管）

⑤ ウィズコロナ時代における持続可能な文化活動の実現

- ・県民が安心して活動できる機会の確保（コロナ対策等）
- ・アーティスト等へのセーフティネットの構築
- ・デジタル化、情報通信機器の活用
- ・観光分野等との連携
- ・文化施設等における多言語化等の推進

